

## プレスリリース

### 金田勝一「OUR HOUSE」展

2021年6月12日（土）-7月17日（土）

東京画廊+BTAP | 東京

〒104-0061 東京都中央区銀座 8-10-5 第4 秀和ビル 7階

TEL: 03-3571-1808 / FAX: 03-3571-7689

この度、東京画廊+BTAPでは、金田勝一 個展『OUR HOUSE』を開催いたします。金田にとって11年ぶりの個展となります。

金田勝一は1970年京都府生まれ。1995年に京都市立芸術大学美術研究科（絵画専攻）修了後、京都を拠点に制作活動を行っています。2009年から京都市立芸術大学で油画の教鞭を取り、2020年より教授。艶やかな色が印象的な金田の作品は、絵画・立体ともにFRP樹脂を支持体とし、油絵具、ニス、アクリルラッカー、自動車用塗料、デカール、サーフェーサーなど、さまざまな塗料を用いて制作されています。代表作である《Human's Own》シリーズはF-1をモチーフにし、利益を求めて社会をさまよう人間の本質を、動きを止めると死ぬサメに重ね合わせて表現しています。

本展では、《Human's Own》の最新作3点と、2015年より制作するペインティング《Plastic Construction》シリーズを展示します。

《Plastic Construction》シリーズは、油絵具、ファイバーグラス、ポリエステル樹脂、ステッカーなど、プラスチックと同様の石油由来の素材で構成される平面作品です。描かれるのは、自宅の庭、コンビニエンスストア、モールの屋上駐車場、京都縦貫道など、日常的に目にする光景ですが、あちこちにステッカーが配置され、情報や記号が浮遊する社会を模しているように見えます。

《Human's Own》の最新作でも、ペダルカーの支持体に金田が制作したステッカーが貼られています。プラスチックの不定形な性質をすくい取りつつ、安価で日常的な素材を用いながら、金田は現代社会の光景を流動的な構造に流し込んでいます。

展覧会のタイトル「OUR HOUSE」は、1980年代イギリスのスカ・バンド Madness のヒットソングです。金田は、サッチャー政権下の労働者階級の暮らしを半ば自虐的に、半ば楽天的に歌ったこの曲と、現在の社会状況を対照的に見えています。身分や境遇の違いから省みられなくなった真実を、郊外のストリートに立ち戻って記録し続けようという、金田の基本的な制作姿勢の表明とも言えるタイトルです。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。



<HUMAN'S OWN for kids 01> (2019年) ペダルカー、ウレタン塗装、ステッカー 87 x 35 x 46 cm



<PC.046「京都縦貫道 03」> (2021年)

パネル、綿布、ポリエステル樹脂、ファイバーグラス、ウレタン塗装、ステッカー、油彩 120 x 160 cm

東京画廊+BTAP プレス担当: 鈴木佳世

e-mail: [info@tokyo-gallery.com](mailto:info@tokyo-gallery.com) / website: [www.tokyo-gallery.com](http://www.tokyo-gallery.com)

開廊時間 | (火-土) 11:00-17:00

休廊日 | 日、月、祝

\*現在オンラインによる事前予約制としております。  
ホームページでご予約承ります。

東京画廊+BTAP | 東京

〒104-0061 東京都中央区銀座 8-10-5 第4 秀和ビル 7階

TEL: 03-3571-1808 / FAX: 03-3571-7689

[www.tokyo-gallery.com](http://www.tokyo-gallery.com)